

麻生氏発言は「政府内で調整」

自民政調副会長 先制攻撃否定せず

自民党の鈴木馨祐（けいすけ）政調副会長はの日夜のBSフジ番組で、同党の麻生太郎副総裁が台湾で「日本、台湾、米国をはじめとした有志国に、非常に強い抑止力を機能させる覚悟が求められている。たたかう覚悟が必要だ」などと発言したのは、「個人の発言ではなく、政府内部を含め、調整をした

結果だと述べ、「政府公認」の発言だと認めました。鈴木氏は訪台に同行していました。

麻生氏は抑止力とは、「能力」とそれを行使する「意志や国民的合意」、たたかう覚悟を「相手に教えておくこと」の三つで構成されるとも指摘しています。鈴木氏は中国を念頭

に「GDP（国内総生産）を2倍にしても実際に使える力ができるには時間がかかるが、待ってられない状況もある」と主張し、安倍晋三文書に基づく大軍拡を正当化。さらに、米中が台湾海峡で軍事衝突した場合、「日本としてさまざまな事態が想えられる中で、個別の自衛権の発動も考えられる。『たたかう覚悟』が国民全体でで

きていないければ張り子の虎になる」「始まってから『たたかう覚悟』を書いても全く間に合わない。われわれは頭の片隅に置いておかなきゃいけない」などと述べ、先制攻撃の可能性を否定しませんでした。